

比較表

	エアコン台数	総馬力(HP)数	分ダクトファン台数
通常設計	16台	71HP と 2.2kw × 1台	0台
省エネ設計	10台	50HP	13台
	16台 > 10台	71HP+2.2kw > 50HP	0台 < 13台

よって、

- ・エアコン台数 62.50% 6台減
- ・総馬力数 69.65% 21.78HP減
- ・分ダクトファン台数 + 13台

<省エネ効果>

1. エアコン台数が6台減により、施工事費が37.5%減(電気工事費同様)。
2. エアコン台数が6台減により、年間メンテナンス費も37.5%減。
3. 総馬力数が21.78HP減により、年間の消費電力費が下がる。

※ 空調工事費は37.5%下がりますが、分ダクトファン施工費がプラスされるため、約10%前後のダウンと思われます。

分ダクトファン設計要領

1. 通常空調計算を行い、算出された総馬力(HP)数に70%をかけて出た馬力数が、設計能力です。その馬力数に応じて、内機台数を決定する。
2. 室内の4角に天井カセット4方向形をエアコン芯より3.5m半径にて設置。
その後、室内全体を台数に応じて配置する。
3. 空調の届かない部分に分ダクトファンを配置する。
必要のない部分には分ダクトファンは配置しない(有効範囲は、半径2m～2.5m)。冷蔵庫や倉庫等。
4. 室内に油や蒸気、臭い等が発生する場所や厨房・パントリー等は、KF-03型(直吹きタイプ)を使用する。空気を循環させない。(ファン本体の汚染防止)
5. 天井面までの高さがある場合、CH=3.5m以上の場合は、KF-03型が有効である。
6. 分ダクトファンの電源メインスイッチの選定(ファン1台に1個リモコンスイッチ付き)
 - ① 照明器具類との連動
 - ② 専用スイッチの取付(一括制御とエリア別制御)
 - ③ エアコンとの連動

※注意

事務所・会議室等では、テーブルの真上はファンの取付けをずらす。
コンロ等、直接火が出るところも同様である。